

## 基礎・基本はなぜ大切なのか？

「学校」・・・特に義務教育である小・中学校には、子どもを「知・徳・体の調和のとれた人間に育てる。」という大きなねらいがあります。今回は、「知」を育てるということについて少し考えてみましょう。

義務教育である小・中学校における「知」とは、いわゆる「学習指導要領」に示された教科の内容、つまり「基礎・基本」であるといえます。実は、この「基礎・基本」が、人が生きていく上で、また、義務教育を終えてからも、人が豊かに生活するためにとっても重要なのです。

一つ例を挙げてみましょう。3年生の理科では「昆虫とは、体が頭・胸・腹の三つに分かれていて、6本の足が胸から出ている虫である。」という原理・原則を学びます。したがって、「チョウやクワガタやアリは昆虫であり、だんご虫やムカデやクモは昆虫ではない。」と3年生は言えなければならないのです。これが3年生における「基礎・基本」と考えてみてください。

ところで、この写真の生き物をご覧ください。

### 8本足のアリ？まさか！



### 足を触覚のように見せるところがすごい！

アリのように見えますがよく見ると、足が8本あるように見えます。3年生の理科を学習する前の子どもは、何の迷いもなく「8本足のアリがいた。」と言うでしょう。しかし、3年生の「基礎・基本」をきちんと身に付けた子どもは、ここで「8本足のアリ？そんなはずはない。アリは昆虫だから足は6本のはずだ。しかし、どう見ても見た目はアリだ。なぜだろう？調べてみたいな！」というように思考の深まりや知的好奇心のふくらみが見られるのです。そして、実際に調べてみるとアリの姿に擬態(ギタイ；他の生物に姿を似せて、天敵の目をあざむく、あるいは獲物を獲りやすくする

こと)した「アリグモ」というクモであることが分かり、発見の喜びと新たな知識を得ることができるのです。これが学ぶ楽しさだと思います。

「基礎・基本」の重要性が分かっていただけではしょうか？学年に応じた平仮名や漢字が読み書きできるという「基礎・基本」を身に付けて初めて、感動的な物語や説明文などの作品を味わうことができ、また、それについて自分なりの感想が書けるようになるのです。ただ、少々やっかいなのはこの「基礎・基本」を身に付けるには、個人差はあるものの、ある程度の苦労が伴うということです。繰り返し漢字を練習したり、計算を練習したりといった苦労です。ここを嫌がり、あるいは、ここのハードルが高くて、なかなか「基礎・基本」が十分に身に付かないという子どもが案外少なくありません。「基礎・基本」が身に付かなければ、その先にある学ぶことの楽しさを味わうことが難しくなります。とても残念なことです。小学校や中学校時代は人が豊かに生きていくための大切な土台づくりの時期なのです。※ちなみにこの「アリグモ」は、結構身近なクモなのです。私たちが見過ごしているだけです。

## パソコンで楽しく学習

子どもたちの学力向上に少しでも役立てようと、校長室を開放して、パソコンを使った学習をさせています。内容は、主に国語や算数の基礎・基本に関するもので、代表的なものは、四則計算練習です。

問題がランダムに出題され、正解するとチャイムが鳴ったり、キャラクターが動いたり、子どもたちが楽しみながら計算技能を習得していくように作られています。

今のところ、低学年がよく利用していますが、自分から進んで取り組んでいる児童は、やはり力が伸びています。今後、中・高学年にもどんどんと勧めてみたいと思っています。

